

研究科紹介



調査・データ解析により地域に貢献

一瞬の愉悦

数理工学という分野が私の研究のベースです。数理工学では現象の特定の性質に注目し、それ以外の性質を捨象することによって、数理モデルと呼ばれるものを構築します。この数理モデルを用いて現象を表現し、分析を行います。

数理モデルは特定の性質を説明するために構築されたものですので、いわば現実のちっぽけな模型に過ぎません。しかし、じっと覗き込んでみると、その中に現実の全てが包含されていることを見出す瞬間があります。部分の中にある全体。このめくるめくような感覚を味わうのは研究者にとっての至福の時です。

現在の研究テーマはWHOのセーフコミュニティ認証の一環である外傷調査や、生活習慣病に関する調査とそのデータの解析です。人間はとても複雑な存在で、モデル化することは難しく、なかなか至福の時に浸ることはできません。しかし、いずれは有効な数理モデルを構築し、青森県の健康増進に貢献したいと考えています。

栄養学科 教授 山田真司(やまだまさし)



学科紹介

臨床実習で大きな成長

頑張れ!
将来の理学療法士

理学療法学科

実家の八戸と青森で臨床実習を行いました。病院スタッフとの患者さんのリハビリ方針決定会議に参加したり、八戸では国体に行ったスポーツトレーナーの講習会にも参加でき有意義な実習でした。ただショックだったのは患者さんの死に直面したこと。現実と直面したことで将来への思いもさらに強いものとなりました。

理学療法学科 4年 柳谷知伯(やなぎやともり)さん

本学科では実際の現場で体験をする臨床実習を通し、学生の育成につとめています。臨床実習は各学生3回行われ、様々な地域で様々な患者さんの状況に立ち会います。最初はうまく話せなかった学生も、一皮向けて帰ってくるのがうれしいですね。実際の経験は忘れない知識となります。学生が将来臨床の現場で活躍してくれることを願って、これからも全力でサポートをして参ります。

理学療法学科 准教授
川口徹(かわぐちとおる)

実家のある福島県郡山市、青森、岩手の病院で臨床実習を行いました。患者さんはケガだけではなく脳卒中など様々な病状でリハビリが必要でした。カルテで問題点を考慮し、回復に向けての実践を行いました。大切に感じたことは「患者とのコミュニケーション」。不安を取り除くため、笑顔で話したり理解したりすることで力になれると感じましたね。

理学療法学科 4年
安中聡一(あんなかそういち)さん

